

## 防衛省・自衛隊の人的基盤の強化に関する有識者検討会（第6回）議事録

### 1 日 時

令和5年7月12日（水）1050～1120

### 2 場 所

A棟11階 第1省議室

### 3 出席者

#### （有識者）

齋野委員（座長）、奥本委員、折木委員、喜多委員、黒江委員、佐藤委員、中田委員、久江委員、松元委員

#### （防衛省）

人事教育局長、大臣官房政策立案総括審議官、統合幕僚監部総務部長、陸上幕僚監部人事教育部長、海上幕僚監部人事教育部長、航空幕僚監部人事教育部長、人事教育局人事計画・補任課長

### 4 議事内容

齋野座長から、「防衛省・自衛隊の人的基盤の強化に関する有識者検討会報告書(案)」について、報告書の意義及び概要について説明があった後、報告書が決定された。その後、各委員、人事教育局長及び政策立案総括審議官から報告書のとりまとめにあたっての所感が述べられた。主な発言は以下のとおり。

### 5 発言の概要

#### （座長）

- ・ 本日をを入れてこれまで6回、委員の忌憚ない率直な意見があり、様々な議論を経て成案が出来上がった。報告書としてまとまったことを嬉しく思う。
- ・ 報告書（案）について、御異議がなければ、防衛大臣に提出する報告書として、本案を決定することとしたいが、了承いただけるか。
- ・ 御異議がないとのことで、本案をもって、「防衛省・自衛隊の人的基盤の強化に関する有識者検討会報告書」を決定する。

#### （委員）

- ・ 包括的かつ具体的な報告書がまとまり、非常に良かった。報告書の最後にあるとおり、不断の見直しや取組を期待したい。予算や定員など、防衛力整備と人的基盤の全体最適を探る取組を、今後も続けてほしい。

#### （委員）

- ・ 多くの方に支えられ、報告書がまとめられたことを嬉しく思う。座長や委員はも

ちろん、毎度会議前の資料の事前ブリーフィングをしていただいたり、自衛隊の現場の様子を見たい、という要望に対し、大変手厚くフレキシブルに対応いただいたりした。これらも含めて今回の報告書につながったと思う。「おわりに」にあるとおり、マイルストーンを作り、報告書が生きるようにしてほしい。

(委員)

- ・ 昨年秋に官邸で行われた防衛力強化のための有識者会議から防衛力の検討に携わって以来、自分の国は自分で守る意識をどれだけ国民の間に浸透させていけるかが重要と考えている。装備の強化は財務省がお金をつけてくれればできる話だが、人的基盤の話はそうはいかない。報告書の施策を一つ一つ地道にやるしかない。自分の国を守るため、生命の危険を顧みず職務にあたるのは自衛隊員だけであり、処遇をしっかりと向上させることが、人材を集めることにつながる。このことが、装備の強化と相まって日本の防衛力を強化させるのであり、報告書に書かれた内容を地道に愚直に進めていただきたい。

(委員)

- ・ 取りまとめにあたり尽力いただいた事務局に感謝する。座長の方針もあり、非常に自由な議論もあり取りまとめは大変だったと思うが、その分、採用に閉じない広い範囲で検討を行うことができ、良い報告書になったと思う。今回の内容は、まさに人材のマネージメントや自衛隊の戦略に関わるもの。これを実践していくのは現場であり、また、その現場のリーダーたちである。施策・制度を作るだけでなく、いかに浸透させていくか、現場で実践していくかが最大のポイントになるので、丁寧に進めていただきたい。
- ・ 隊員のライフサイクル全般における活躍を支援するとあるとおり、これらの施策により、隊員が安心して伸び伸びと力を発揮できる風土を作り、自衛官という職業に誇りを持てるような機会になればよいと思う。

(委員)

- ・ 取りまとめにあたり、各位の協力に感謝する。人事行政分野は内容が幅広く、すぐには効果が出ない分野だが、募集をはじめ危機感があることから、具体化を急がなくてはならない。現場の部隊から見れば、防衛省・各幕が制度をしっかりと整え、それに基づき実行していくことが大事であり、制度が整備されていないあやふやな状況が続くのはよくない。大変ではあるが、制度・システムの設計にしっかりと取り組んでいただきたい。
- ・ 募集に関する危機感は、施策をどうするかに加え、そもそも防衛省・自衛隊の体制をどうするか、という問題につながる。これは今から考えなくてはならず、これを放っておけば防衛省・自衛隊全体に影響を及ぼす。
- ・ 隊員の量と質の問題について、質を育てることはすなわち人を育てるということであり、教育体制も含め、数が少なければ質を上げていくということも考える必要がある。

(委員)

- ・ 座長の取りまとめにおける尽力に加え、内局・各幕双方の努力に敬意を表する。最も心に残っているのは、現場を視察した際に隊員が「様々な意見を述べる機会をもらうが、実際にそれが実現されることはなかなかない。ぜひ実現してほしい。」と言っていたこと。今回決めた方向性を着実に実現させてほしい。
- ・ 戦力組成の問題は、今後の自衛隊の在り方を考える際に避けて通れない問題。人事担当部局の手に余る問題かと思うので、全省的に課題として扱われることを望む。
- ・ 国民の意識も非常に大きな課題であり、防衛省ができることもあると思うが、国民の意識の向上、理解の促進のため、私自身もできることをやっていきたい。

(委員)

- ・ これまでいろいろな議論があったが、それを丁寧に報告書にまとめていただき、感謝する。私自身もこれまで長らく企業の執行側の責任者としていろいろな変革に携わってきたが、方向性をまとめる以上に、それを施策として実行していくことが大変であり、難しいということを感じてきた。これからいろいろな関係者を巻き込みながら施策に落とししていくこと、また世論という目に見えない存在もバランスを見ながら調整し、それを執行していくまでには長い道のりとなるが、本報告書を生かし、ぜひ実行して行ってほしい。

(委員)

- ・ 国にとって一番大事なものは、国民の安全・安心であり、そのための大きな柱となるのが国を守る自衛隊。装備もあるが、一人一人の自衛官がいなければ国を守れず、自衛官は若い人が中心にならなければ務まらない。人生百年の中で、若い人たちが国を守るという大事な仕事に志せるような組織になっていただきたい。自衛隊に対する国民の理解は、東日本大震災や最近の国際情勢等でかなり進んできたが、もう一つというところであり、若い人でなければ務まらない国民の安全・安心を守る仕事に、きちんと若い人が就いていく、そのような人が一人でも増えていく、ということが人的基盤で重要であると感じた。

(防衛省)

- ・ 役人を長くやっていると、いろいろな有識者の方に御意見を伺う機会があったが、最終盤でこれほどに凛とした委員の先生方から、厳しくも温かい御意見を伺う場に立ち会えたのは幸せだった。視察に行く車中で鋭い御意見を含めあらゆる会話を持てたりしたことは、これまで経験したことがなかった。そして、我々の側も任期制自衛官に象徴されるように、改革が待ったなしであるという状況で議論が行われたのも特色だった。報告書に書かれた内容を我々職員の間でもすでに議論が始まっている状況は、自分自身として心地よく、誇らしい気持ちをしている。これまで御議論いただいたこと、また既に我々が着手していることに、御意見・コメントをいただきながら、施策として反映させていきたい。大変印象に残る、重い報告書となった。

### (防衛省)

- ・ 座長を含め、委員の先生方の御尽力、御指導により、立派な報告書をいただいたことに感謝する。昨年省内で三文書の議論を行ったが、本格的な人口減少社会に直面し、途方に暮れていた部分があった。部内の議論では従来の延長線を越えた施策は出てこなかった中、大臣の指示も踏まえ、このように民間の意見も聞きながら、従来の延長線でないものも多く含んだ報告書をいただくことができた。これを将来の政策にいかに関反映していくか、まずは概算要求、そして防衛力整備計画の中でのように制度を変えていくか、検討をしっかりと行っていきたい。
- ・ 人事政策は部内の議論だけではなく、人口動態や労働市場を見つめながら民間の意見を踏まえやっていくべき、という意見をいただいたため、省内でも検討していきたい。毎度の議論や、部隊視察で徐々に新隊員の意見を聞くなど、自身にとっても大変勉強になった。

### (座長)

- ・ 委員各位の知識・人間性の深さに触れ、ここまで温かく見守っていただいたことに心から感謝申し上げます。この貴重な機会を、今後も様々な場で生かしていきたい。事務局におかれても、町田局長、石川審議官はじめ、内局・各幕の方々には、部隊視察の一つをとっても、準備をいただき、心配りの行き届いた対応に心から感謝申し上げます。検討会での一言が事務局へ負担をかけたこともあったと思うが、ひとえに検討会での議論を深めるためだったと御理解いただきたい。この場にいる方に加え、部隊で仕事をされている方、内局でも夜遅くまで検討会のために頑張ってくれた方々、すべての方々に御礼申し上げるとともに、これをどうか伝えていただきたい。
- ・ 素人ながら、防衛省・自衛隊が日夜どれだけ努力されているか、知る機会でもあった。国民にとってこのような組織を持っていることは誇りであり、それを更に拡充させるための議論であった。委員の先生方からいただいた内容はすべて共感するものであり、国民一人一人が防衛問題を我が事として捉えるにあたり、本報告書がその一助となることを願ってやまない。